

(住宅)

昭和53年から平成20年までの住宅・土地統計調査による専用住宅1戸当たりの状況を見ると、延べ面積は平成5年までは増加傾向でしたが、平成10年以降は横ばいとなっています。居室数は昭和63年までは増加傾向でしたが、平成15年以降は減少傾向となっています。

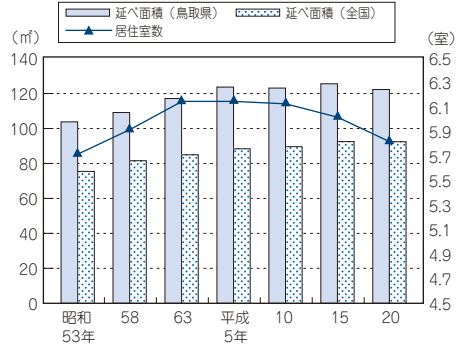
また、空き家数・空き家率の推移を見ると、空き家数は長期にわたり増加傾向となっており、空き家率は平成5年に横ばいとなつた以外は、上昇傾向となっています。

建築着工統計調査による新設住宅着工戸数の推移を見ると、平成17年以降減少傾向にありましたが、平成19年は改正建築基準法の影響により大幅に減少し、それ以降も減少傾向は続いています。

住宅に関する主な指標

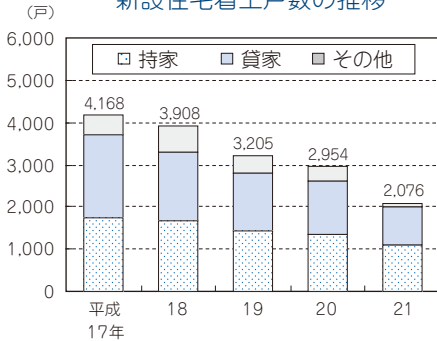
指標名	鳥取県	順位	全国	年次
持ち家比率	70.4%	16	62.1%	17
持ち家延べ面積 (1世帯当たり)	150.7㎡	8	119.8㎡	17
住宅地平均価格 (1㎡当たり)	27,100円	40	55,400円	21

専用住宅1戸当たりの状況



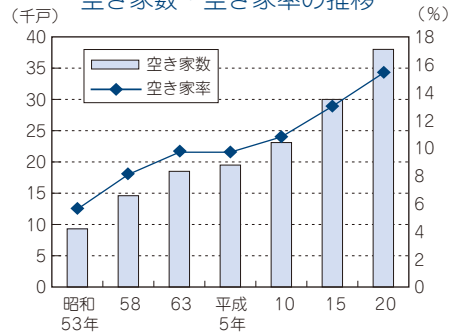
資料 総務省「住宅・土地統計調査」

新設住宅着工戸数の推移



資料 国土交通省「建築着工統計調査」

空き家数・空き家率の推移



資料 総務省「住宅・土地統計調査」

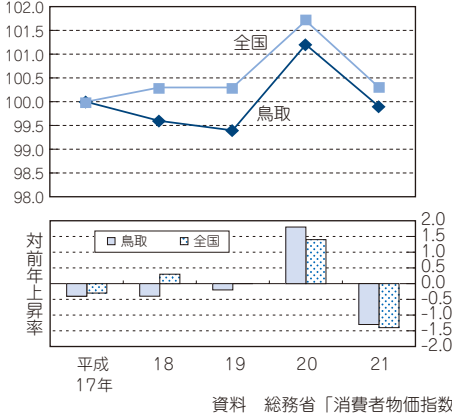
利用別新設住宅着工戸数

単位：戸・㎡

年次	総数		持家		貸家		給与住宅		分譲住宅	
	戸数	床面積	戸数	床面積	戸数	床面積	戸数	床面積	戸数	床面積
平成17年	4,168	381,872	1,738	243,963	1,961	89,661	14	993	455	47,255
18年	3,908	379,171	1,668	239,064	1,619	78,877	58	2,742	563	58,488
19年	3,205	320,282	1,429	199,598	1,363	75,276	5	830	408	44,578
20年	2,954	290,741	1,346	189,469	1,258	64,564	2	228	348	36,480
21年	2,076	200,744	1,094	148,316	901	44,363	20	1,344	61	6,721

資料 国土交通省「建築着工統計調査」

消費者物価指数（総合）



（消費者物価指数）

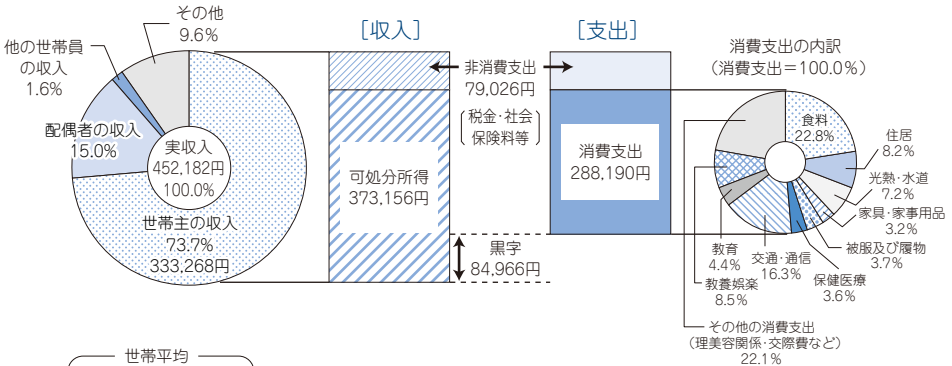
平成21年平均消費者物価指数（平成17年＝100）を見ると、鳥取市の総合指数は99.9で、平成20年と比べ、1.3の低下となり、全国の総合指数は100.3で、平成20年と比べ、1.4の低下となっています。

（家計）

平成21年の家計調査によると、鳥取市の勤労者1世帯あたり月平均の可処分所得は373,156円となっています。

一方、消費支出を見ると、288,190円となっており、その内訳は、「食料」の占める割合が最も高く、次いで「交通・通信」「教養娯楽」の順となっています。

平成21年平均1世帯あたり1か月間の収入と支出（鳥取市勤労者世帯）



※ここでいう1世帯あたり1か月間の収入とは、ボーナス等も含めた年間の収入を12か月で割った1か月当たりの平均値。

資料 総務省「家計調査」

主要家計指標（鳥取市勤労者世帯1か月）

単位：人・円・%

年次	平均世帯人員	可処分所得 (A)	消費支出 (B)	平均消費性向 (B) × 100 (A)	黒字	貯蓄純増 (C)	平均貯蓄純増 (C) × 100 (A)
平成17年	3.37	364,421	291,503	80.0	72,919	44,530	12.2
18	3.65	419,463	298,936	71.3	120,526	80,994	19.3
19	3.38	391,827	293,925	75.0	97,902	80,374	20.5
20	3.39	369,946	283,792	76.7	86,154	29,758	8.0
21	3.35	373,156	288,190	77.2	84,966	66,101	17.7

注) 可処分所得＝実収入－非消費支出
貯蓄純増＝(貯蓄＋保険掛金)－(貯蓄引出＋保険取金)

資料 総務省「家計調査」